

安全と環境を考えるニシオの広報誌

2001

Vol-1

49

安全くん

21世紀も
ご安全に!! の巻



インターネットホームページ
「安全くんネット」もご覧ください。

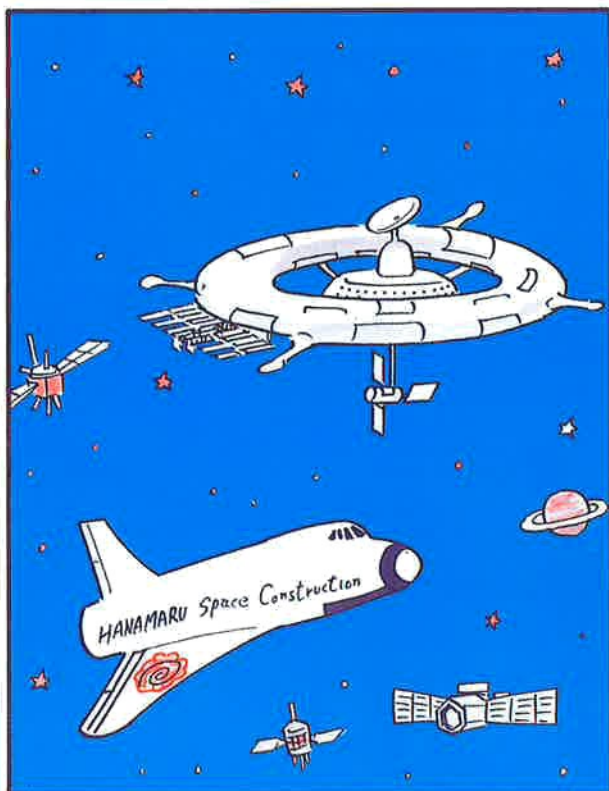
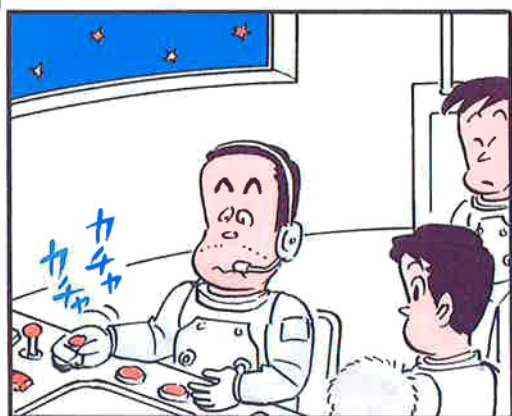
<http://www.anzenkun.nishio-rent.co.jp/>

〈この広報誌は、再生紙を使用しています。〉

それ行け!! 安全くん

画 中村よしのぶ

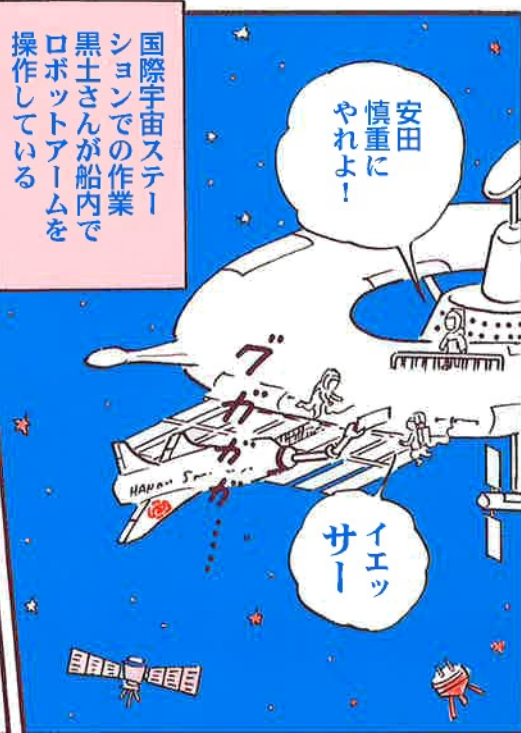
「21世紀も
ご安全に！」の巻



横着をして
中途半端に
フックを掛けた
安全くん



国際宇宙ステー
ションでの作業
黒土さんが船内で
ロボットアームを
操作している



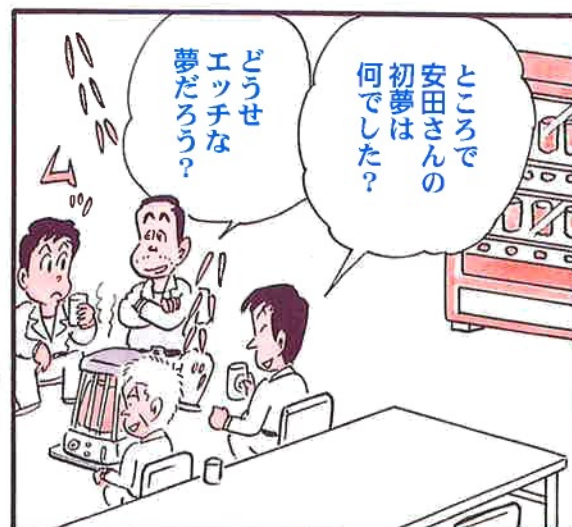
解説コーナー

安全ミーティングは、職長の試練の場!?

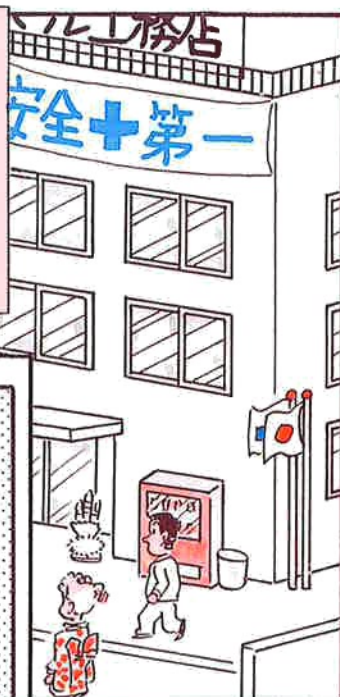
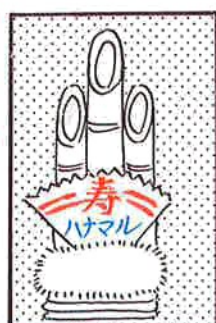
一日の始まり。安全ミーティングでの職長の役割は非常に重たいもの。しかし、年令や経験など様々なメンバーを一つにまとめるのも大変なご苦労だと思います。今日の作業内容、各自の仕事や時間、チェック・報告すべき事項、さらに安全上の注意まで。よほど、事前に考えておかねば要領よく話しは進みません。作業所・他職など、作業全体を把握しておくこと。自分たちの今日の仕事を見通しておくこと。作業員の能力・体調を頭に入れておくこと。特に安全上の問題がないか確認しておくことなど、非常に多岐にわたる事項を背負ってミーティングに臨まねばなりません。行き当たりばったりでミーティングを行うのではなく、朝早く現場を見て廻ったり、メモに書きとめておいたりしてこの“試練”の場の準備をする方が多いようです。また、メンバーから発言させるように話しをもっていくことも、内容の徹底という点で重要なことです。つまり、“熟練の職人”という側面より、皆をまとめて方向を示していく“リーダー”という自覚をもっている方が「職長」になるべきであり、この人間修養の場で自分を磨くことができる人が理想の「職長像」だといえます。



休憩室



新年を迎えた
ハナマル工務店
初出勤のメンバーは
ストープを囲んで！



ガンさんのワンポイントレッスン

～危険回避のシミュレーション～

「いろいろな出来事から 身近な安全を考えてみよう！」

最近、テレビでよく特集される番組に「奇跡の生還」「危機一髪からの脱出」のようなドキュメントをよく見かけます。困難な状況から奇跡的に脱出できたり、いろいろな人たちの救助活動によって助けられた、という話ですが、登場した人たちは突然振りかかった災難に対して「とっさにどうしたのか？迷った時にどちらを選ぶか？」など、貴重な体験談が多く出てきます。そこでは、「過去の体験や耳にしたことがある危険回避のための法則」のようなものをもとに冷静に行動していたことに驚かされます。私たちの現場も危険に満ち溢れています。普段の作業だけでなく、自然災害や不測の事態が発生した時、どうしたら助かるのか、仲間を助けられるのか、ということも考えておく必要があります。いろいろなことを想定するために、仲間たちが実際に経験した「ヒヤリハット」や「事故事例」の情報などから、自分に置き換えて考えてみる。不幸にして災害に出くわした時や判断に迷った時、とっさに正しい行動がとれるかどうかは、このあたりの普段の活動にかかっています。そして、現場内のルールや場内の危険箇所、避難ルートなども自分で見て確認しておけば、さらに的確な対応ができることでしょう。宇宙開発のメッカNASAでも、地上でさまざまな状況を想定した訓練を行うとか。しかし、私たちがそのようなことは出来ません。だから、いろいろなことを知り考える、つまり頭の中で「シミュレーション」しておくことが大切なのです。



零下でのメンテナンス

やはり一番発生しやすいのは、凍結による問題です。それも、外から見える部分ではなく、重機の燃料タンクや散水装置など見えない部分での凍結です。

①水抜きはこまめに実施してください！

重機、発電機など、大型の燃料タンクをもつ機種では、燃料に混入した水分が沈下し、エンジンへの給油パイプ付近で凍結、燃料の供給ができなくなることがあります。これを防ぐには、水抜きを頻繁に行うしかありません。また、燃料を満タンにしておくことで、結露→凍結を防ぐ方法もあります。

②ポンプが破裂する場合があります！

散水装置や給水装置のある重機では、凍結による膨張で配管やポンプ自体が破裂することもありますので、作業終了時に水を抜いておいてください。

③外気温にあった燃料・オイル・不凍液を使用してください！

冷却水の不凍液ですが、機械を気温の低いところや山岳部へ移動した場合、設定気温以下になれば凍結しますので、現在入っている不凍液の濃度と移動先の予想最低気温を確認して適切な措置をとってください。

④翌日、気温が零下に下がると予測される場合は、ラジエータの位置を北向きにならないよう（風が直接あたらないように）に機械の位置を変えたり、シートを被せておくなど対応策を講じておいてください。





解説コーナー

ご注意ください！雪害作業に多い無資格運転

◆除雪作業が増えるこの時期に…

除雪作業でタイヤショベルがよく使われますが、中でも小型のタイヤショベルを無資格者が運転操作し事故を起こすケースが増えています。前後進時の運転ミス、ショベル操作のミスで一緒に作業をしていた人を危険にさらしたり、民家を壊す事故、また路肩の溝へ脱輪して運転手が負傷する事故も発生しています。

◆なぜ、無資格者が運転するのか？

小型のタイヤショベル（機体重量3t未満）の操作は、小型車両系建設機械（整地・運搬・積込用および掘削）の特別教育修了者しかできません。しかし「小型特殊自動車」と考え、普通免許でOKと思い込んでいる方が多いようです。実際は、自動車とはまるで異なる操作方法で、運転操作も訓練を受けてからでないと簡単にはできないものですが、除雪作業の必要から、安易に使ってしまったケースで事故が発生しています。

◆レンタル会社でも呼びかけています！

レンタル会社では、受注の際、資格の有無まで確認することは困難です。発注者と運転者が異なるケースが多いからです。しかし、建設業者以外の方から引き合いを頂戴したときは、極力用途を聞き、さらに資格が必要な機種であることをお伝えするよう心掛けています。皆様の周囲にこのようなお話があれば、注意してあげてください。



エンジン系の始動はあせらずに！

寒さが厳しくなると、エンジンのかかりが悪くなるため、つい無理をするケースがあります。

- ◆プレート・ランマーで、リコイルスタート（ヒモを引いてエンジンをかけるタイプ）の場合、アクセルレバーを全開にしておくと、始動した瞬間に機械が暴走するのでご注意ください。
- ◆2サイクルエンジンの機種（コンクリートハンドカッターなど）で、かかりが悪いため何度も始動させようとすると、プラグのかぶりが生じやすいのでご注意ください。（アクセルの開きすぎは、かぶりやすくなります）
- ◆ガソリン系はチョークレバーを引きエンジンをかけますが、長時間チョークをかけていると かぶりやすくなります。
- ◆ハンドガイドローラも冬場エンジンがかかりにくくなる場合がありますが、始動ハンドルにご注意ください。急に回りだしたり、抜けて顔面や手を負傷される例があります。
- ◆セル付のハンドガイドローラの場合、セルを長時間回しっぱなしにすると、バッテリー上がり の原因になります。バッテリーは放電しやすいので、作業後チェックをしてください。



